

今回は、遡るせき史～関市と刃物 の報告です。

## ◇ 宇佐見将太さんからプレゼンテーションについて学ぶ

日時： 令和5年10月29日（日） 13:00～17:30

場所： 春日神社 関市南春日町 | 番地

主催： 関青年会議所

協力： 春日神社 藤原兼房日本刀鍛錬場

関市文化財保護センター

参加： 関市内の高校に通学する高校生

内容：

- ・久田勘鷗氏（能楽師）による能楽講演会
- ・能楽の指導
- ・春日神社所蔵重要文化財（能面等）の拝観
- ・第26代藤原兼房氏による刀剣鍛錬の実演  
（関鍛冶伝承館）
- ・まちの魅力発信を目的としたディスカッション  
（せきてらす多目的ホール）



## ◇ 歴史遺産を生かしたまちの魅力発信について考える



社伝によれば、関市の春日神社の創建年代は鎌倉時代にさかのぼるといふ。

神社には、室町期にさかのぼる能面が多数保管されており、国指定重要文化財の指定を受けている。春日神社は関町の総鎮守であると同時に、伝統の技、関鍛冶の守護神でもあった。春日神社の能楽は、刀匠自身が春日明神に奉納するために舞ったのであり、その伝統は幕末まで続いていたといふ。

能衣装の中には、はるか中国（明王朝）の工房の名が刺繍で縫い付けられたものや、揚羽紋や桐紋の家紋が付されたものがあり、天下人や戦国武将と深い関わりがあった可能性が指摘されている。

このような関の歴史遺産をどのように発信していくべきか。歴史遺産を関のまちづくりに生かすにはどうしたらよいのだろうか。

「そんな問いかけを、高校生と一緒に考えてみたいので、ぜひ、イベントに参加してほしいと」のお声かけを、関青年会議所の皆さんからいただいた。

校内で声をかけたところ、地域研究部、文芸部、関シェアグラム（関観光インスタ発信グループ）に所属する生徒が参加し、有意義な時間を過ごすことができた（写真はディスカッションや能楽実演の様子）。

写真（上から）

刀剣鍛錬の様子 春日神社能舞台での実演

能楽の指導 ディスカッションの様子